

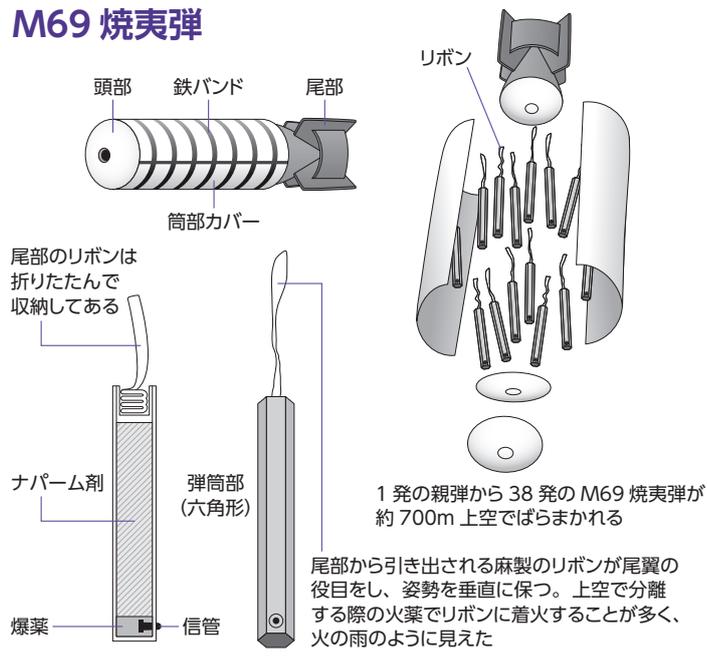
昭和19年末から本格化した空襲によって、直接戦闘に加わらない一般市民にも被害がおよび始めました。そのときの千代田区の様子をまとめました。

日を追うごとに増える空襲

千代田区内の空襲は、昭和19（1944）年11月29日夜半からB29が27機来襲、神田など城東地域が被害に遭いました。昭和20（1945）年2月25日の空襲被害は甚大で、早朝からの積雪で消火活動は困難を極めたとい



M69 焼夷弾



サイパン島の基地で、日本本土爆撃の態勢を整える B29（昭和19年8月）
（毎日新聞社 / アフロ）

B29の脅威



日本空襲用に開発された M69 焼夷弾を 38 発集束した親弾の模型。M69 は直径 8cm、全長 50cm の六角柱の筒の中に約 2.7kg の油脂が充填されたもので、木造の日本家屋を効率よく焼き払った（協力：東京大空襲・戦災資料センター）



街角の交差点付近に、防空壕を掘る勤労学生たち。空襲が本格化する中、街の至る所でこのような退避場所が作られた
(昭和館提供)



昭和18年に完成した東京中央電話局麹町分局。通信手段を確保する重要施設として、堅牢な鉄筋コンクリート造として建設された
(昭和館提供)

昭和19年、旧内務省防空課の指導により、国会議事堂はコーラルで黒く塗られ、防空塗装が施された
(昭和館提供)



空襲への備え

ます。特に神田区の被害は大きく、家屋約1万戸が被災しました。続く3月10日未明には325機のB29による大空襲があり、東京下町に多くの被害を残しました。2時間あまりの空襲で投下された焼夷弾は1700トンにもおよび、推定10万人以上の市民が犠牲になりました。

4月13日深夜から14日未明にかけてと、5月24日の未明、翌25日に大規模な空襲があり、これらの爆撃によって東京の市街地の大半が焦土と化しました。昭和20年5月には麹町区・神田区の多くの地域が被害を受け、尊い人命が失われました。昭和20年6月の推計では、残存戸数が麹町区で9000戸、神田区で3000戸、死傷者は5000人にもおよびました。

焼夷弾を投下するB29。1機あたり約1520発のM69焼夷弾が投下された
(朝日新聞社/時事通信フォト)



空襲で燃え盛る建物を必死で消火（昭和20年）
(毎日新聞社/アフロ)

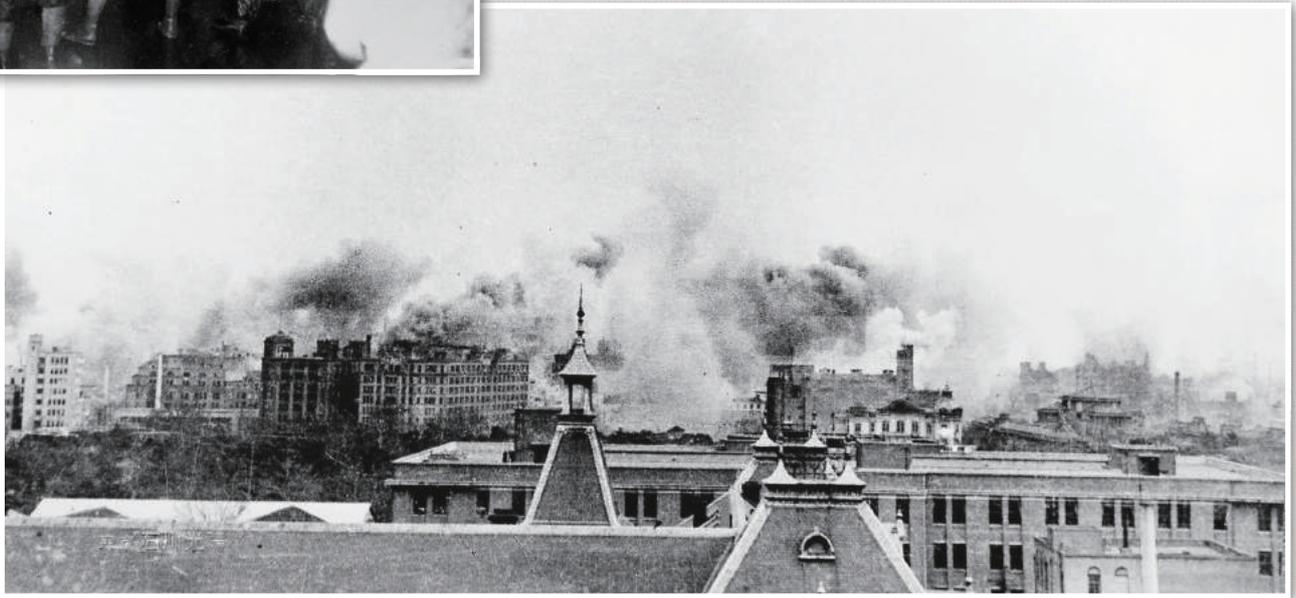


第1次山手空襲の航空写真。下のほうで炎上しているのは、渋谷駅周辺（昭和20年4月13日）
(近現代PL/アフロ)

雨のように降り注ぐ 焼夷弾



焼夷弾に対してバケツリレーで消火
にあたる市民(昭和20年5月25日)
(毎日新聞社 / アフロ)



米軍の空襲で燃える銀座方面。手前から東京駅、東京中央郵便局、有楽町、銀座(昭和20年3月15日)
(読売新聞 / アフロ)



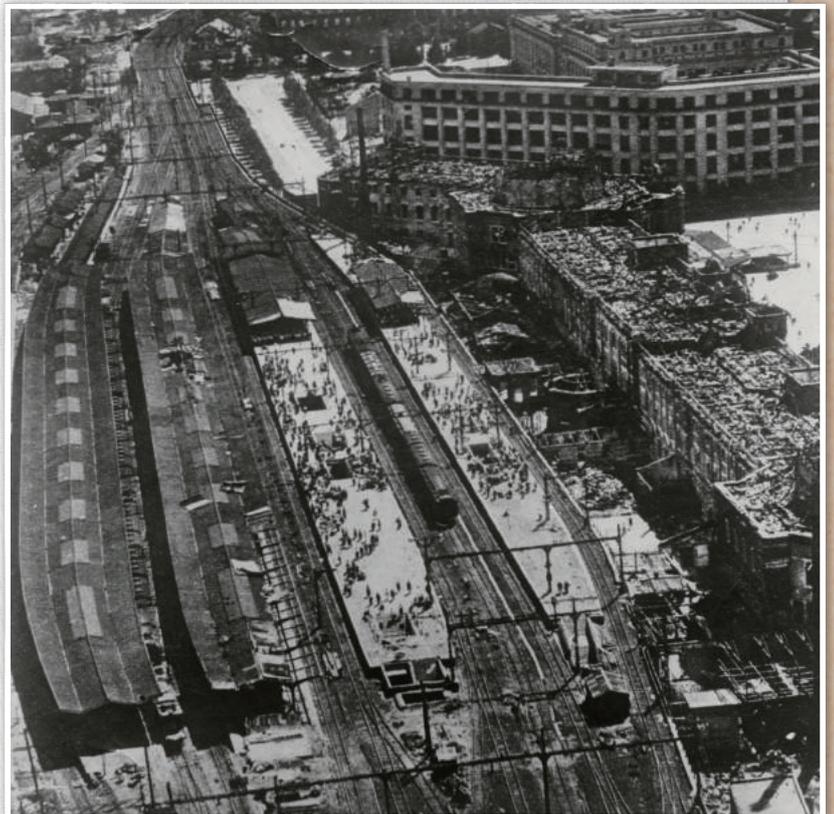
毎日新聞社屋上(有楽町・現在の日比谷シャンテ付近)から見た、B29の夜間空襲で炎上する東京の街並み(昭和20年4月13日)
(毎日新聞社 / アフロ)



皇居も被災。手前は焼けた宮内省主馬寮、
奥が宮内省庁舎
(昭和館提供)



被災した日本劇場周辺（現在の有楽町マリオン）
(昭和館提供)

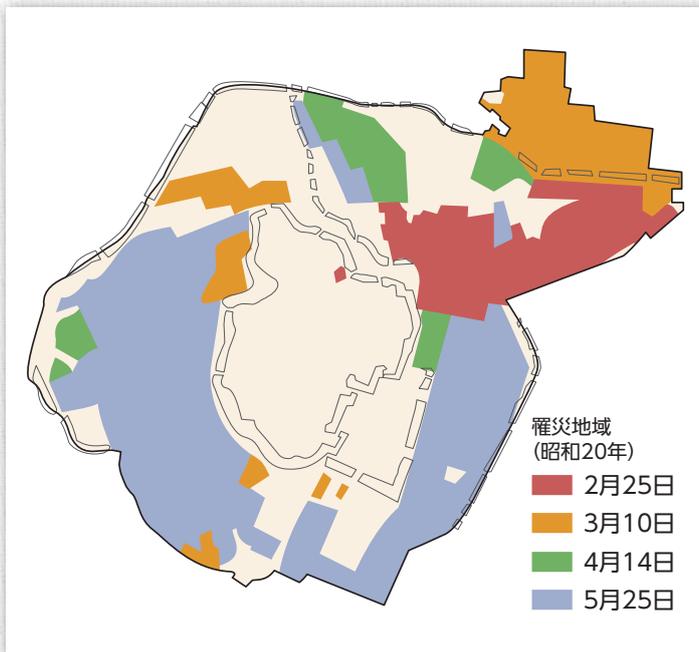


空襲で被爆した東京駅舎と東京駅ホーム
(朝日新聞社 / 時事通信フォト)



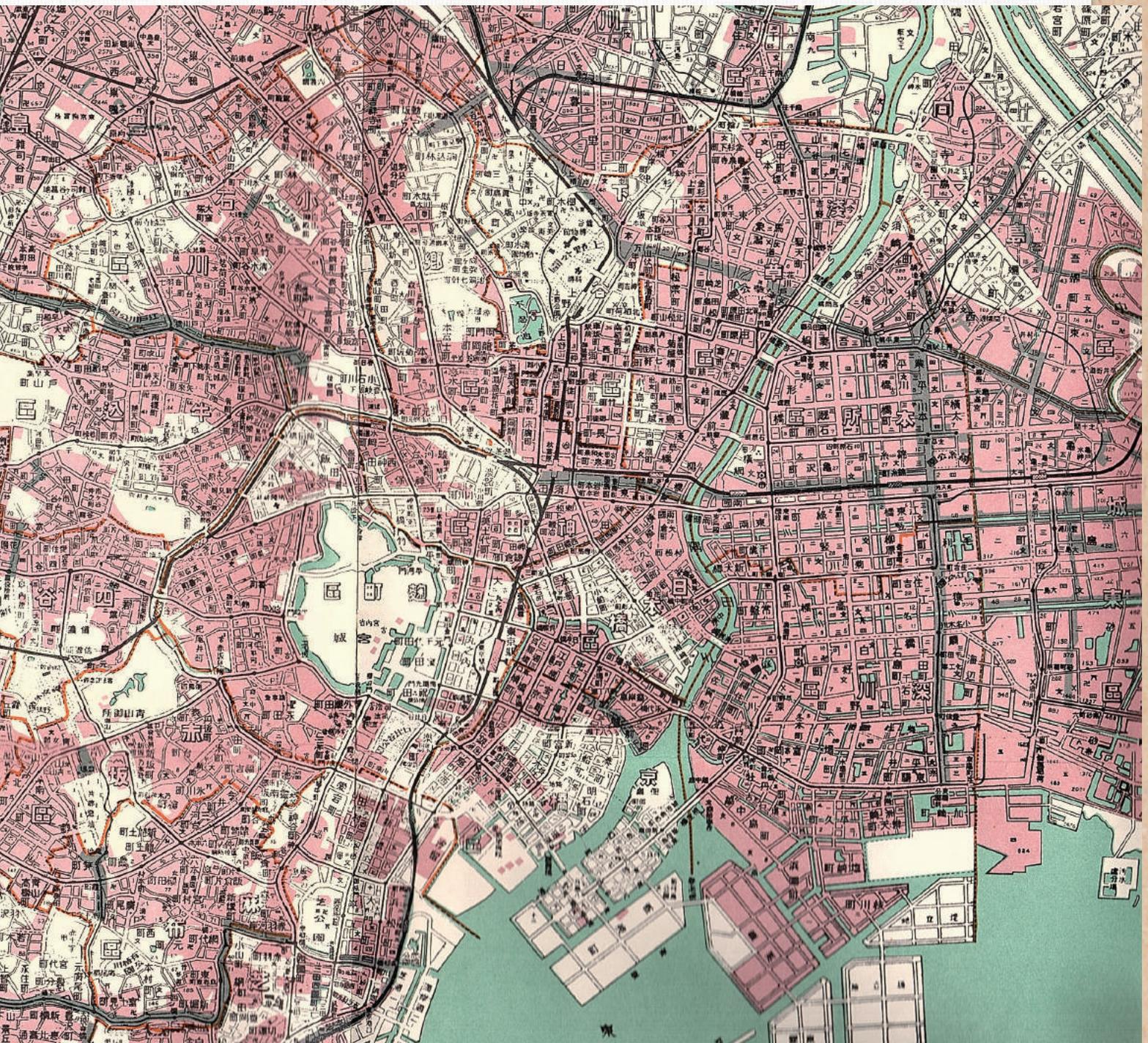
国会議事堂から皇居を望む。周囲一帯が廃墟となった
(昭和館提供)

夜が明けると、 焼け野原が広がっていた



空襲を逃れた九段会館（旧軍人会館）。終戦後はGHQに
に接收された
(昭和館提供)

千代田区域の戦災図
出典：「日本都市戦災地図」より作成



「戦災焼失区域表示 帝都近傍図」(昭和21年)より、千代田区部分を拡大(千代田区教育委員会所蔵)

● 住宅被害戸数

(単位：戸)

	罹災住宅戸数
麹町区	10,431
神田区	15,259
都合計	635,317

● 人的被害

(単位：人)

	死亡	重傷	軽傷	合計
麹町区	411	530	1,341	2,282
神田区	383	410	2,636	3,429
都合計	94,225	33,974	95,366	223,565

(昭和20年6月21日現在の東京都建設局道路課調べをもとに、その後の被害を加えた)

(東京都民生局援護課調べ)

区内の空襲被害記録

● 昭和19年・20年 区内の空襲被害記録

月・日	被害地域	死者	負傷者		被害家屋				被災人員	備考	
			重傷	軽傷	全焼	半焼	全壊	半壊			
11月29日 ～30日	小川町3丁目、鎌倉町、 錦町2・3丁目、多町、 美土代町、旭町、司町	17	4	20	1,310	3		2	4,500	爆弾・ 焼夷弾	
12月10日	有楽町1-14		1							焼夷弾	
12月27日	魏町区内日比谷交差点 付近		1	1							
12月31日	同朋町、宮本町、田代町、 栄町、亀往町、末広町、 元佐久間町、五軒町		1	4	141	5			626	焼夷弾	
1月9日	大手町2-4	1	2	3						爆弾	
1月27日	魏町	142	65	48	3	6		4	5	315	爆弾
2月24日	神田	8	7	12					2	2	爆弾
2月25日	魏町				全半焼 223				1,450	爆弾・ 焼夷弾	
	神田				全半焼 12,700						
3月9日 ～10日	富士見町、霞ヶ関、 丸ノ内、大手町	8	負傷 32						8,000	焼夷弾	
	和泉町、佐久間町 1・4丁目ほか二十三町	19	負傷 164		被害家屋 4,350				14,696		
4月13日 ～14日	魏町	2	2				306	2	1,869	爆弾・ 焼夷弾	
	神田	9	12	72			3,317		8,997		
5月24日	魏町		1	6			79		314	爆弾・ 焼夷弾	
5月25日	魏町	105	負傷 68				5,934		20,585	爆弾・ 焼夷弾	
	神田	3	負傷 159				505	3	2,551		
7月20日	呉服橋と八重洲橋中間 の堀内	3	2	1						爆弾・ 銃撃	

(警視庁、消防庁、帝都防空本部の資料を参照して作成)

● 区別被害面積

	区域面積 (km ²)	罹災面積 (km ²)	比率 (%)
魏町区	8.28	4.37	52.75
神田区	3.1	2.24	72.14
区部全域	570.75	25.2	25.2

(昭和20年6月21日東京都建設局道路課調べ)

